

15歳～79歳の男女10,000人に聞く、「歯科医療に関する生活者調査」

歯科予防意識拡大の兆し？ 3割が定期チェックを実施

歯の定期チェック頻度は、「3カ月～半年に1回」がボリュームゾーン

定期チェックをする人の85%が「かかりつけ歯科医」を持ち、歯医者さん満足度も高い

一方で、日本人の4人に3人が「もっと早くいけばよかった…」と後悔

公益社団法人日本歯科医師会（所在地：東京都千代田区九段北、会長：堀 憲郎）は、全国の10～70歳代男女を対象に、2018年4月20日（金）～4月21日（土）まで、「歯科医療に関する一般生活者意識調査」を実施しました。

本調査は、当会の広報活動の趣旨である「歯科医療に対する国民の認知度・理解度向上」および「歯科医師や診療に対する評価・イメージの向上」に向け、現状の歯科医療を取り巻く環境や生活者の意識を把握し、今後の広報展開に役立てることを目的として、2005年からほぼ隔年に実施しているもので、今回で7回目になります。同調査結果によって、以下のような実態が浮き彫りになりました。

①日本人の歯科健診意識

ついつい先延ばししがちな歯科健診 でも4人に3人はもっと早くに…と後悔

- ◇ 物事を「先に片付けるほう」（73.4%）が主流の日本人。一方、歯科健診は「先延ばしするほう」（52.7%）が過半数に。
- ◇ 先送りしがちな歯科健診だが、4人に3人は「もっと早くから健診や治療をしておけばよかった」（75.7%）と後悔。

②日本人の歯の健康状態

歯の健康に自信が持てない日本人 6割が「健康だと思わない」

- ◇ 自身の歯や口の中の健康状態、6割近くが「健康だと思わない」（57.2%）。先延ばし派では67.4%が「健康だと思わない」。
- ◇ 約半数が、ここ1～2年の間に歯のトラブルにより「生活に支障がある」（51.4%）と回答。
- ◇ 歯や口の中が「健康だと思わない」が最多の50代（63.0%）は、歯のトラブルで生活に支障をきたす人も最多（56.5%）。

定期的に歯のチェックを受ける予防実践者は約3割 受診頻度は3カ月～半年に1回以上

- ◇ 日本人の3割が「定期的な歯のチェック」（31.3%）を受ける予防実践者。
- ◇ 歯の定期チェックの頻度は「3カ月～半年に1回」（66.7%）が多く、定期チェックを受ける理由は「受けると安心」だから。
- ◇ 歯の定期チェックを受けている人は、歯の健康を自負する割合が62.4%と平均（42.8%）より20ポイントも高い。

③「かかりつけ歯科医」の状況

かかりつけ歯科医のいる人は全体の63%

- ◇ かかりつけ歯科医が「いる」のは全体の63.0%。歯の定期チェックを受けている人では84.9%と全体より20ポイント以上多い。
- ◇ 若い世代は半数程度だが、年代とともにかかりつけ歯科医のいる人の割合も高くなり、70代では8割まで増えている。

④歯科医師・歯科医院満足度

歯科満足度73% 歯科医師への一番の要望は「自分の歯をできるだけ残したい」

- ◇ 歯科医師・歯科医院への満足度は平均73.1%。定期チェック受診者では85.3%と満足度が高め。
- ◇ 満足している二大理由は、「治療が丁寧で上手」、「治療前に治療方法をわかりやすく説明してくれること」。
- ◇ 歯医者さんへの三大要望は、「自分の歯をできるだけ残す」、「高い治療技術」、「治療に対する自分の希望を聞いてくれること」。
- ◇ かかりつけ歯科医がいる人は「これまでの治療経験を把握し対応」、「今後も継続的に診てもらえる」など、生涯パートナーニーズも。

調査概要 ■実施時期 2018年4月20日（金）～4月21日（土） ■調査手法 インターネット調査 ■調査対象 全国の15～79歳の男女1万人

*本調査では、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

日本人の歯の健診意識

日本歯科医師会からのごあいさつと総括

日本歯科医師会では、歯科医療や口腔の健康への国民の皆様の関心度や理解度を把握し、広報活動を充実する目的で10年以上意識調査を行っています。本会はこれまで口腔（こうくう）の健康が全身の健康と密接に関わり、口腔健康管理の充実が、健康寿命の延伸につながることをデータと共に発信してきました。それが今、国民的なご理解を得て、国の医療政策の方針にも「歯科健診の推進」「口腔機能管理の推進」「医科歯科連携の構築」などがうたわれています。また最近では「口腔機能管理と誤嚥（ごえん）性肺炎の関係」「歯周病と糖尿病の関係」「嚙（か）むことと認知症との関係」なども注目されています。



公益社団法人
日本歯科医師会
会長 堀 憲郎

今回の調査では、国民の皆さまの口腔の健康に関する意識が高まり、かかりつけ歯科医を持つ方の割合や定期的に歯科を受診している方の割合が増加している一方、歯に自信が持てない方が約6割いることや、歯科健診を先送りし、後悔される状況などが明らかになりました。本会は本調査結果を踏まえて、更に必要な情報を国民の皆さまへお届けしてまいります。30年前に始めた「80歳になっても20本以上歯を保とう」という8020運動は、運動開始当初は8020達成者が1割にも満たなかったものが、平成28（2016）年には5割を超え、最も成功した国民運動の一つとして評価されています。

本会は、超高齢社会で長く生きることだけを目標にせず、食べる、話す、笑うという日常生活の基本的機能を人生の最後まで全うすることを目指してまいります。

■ 日常生活では4人に3人が物事を「先に片付けるほう」と回答

その一方で、歯の健診・受診となると「先延ばしするほう」が過半数に

まず、日常生活で物事に対処するときに、先に片付けるほうか先延ばしするほうか聞いたところ、全体の4人に3人は「先に片付けるほう」（73.4%）と答えています。しかし、歯科医院での健診・受診については、「先に片付けるほう」が47.3%と少なく、52.7%が「先延ばしするほう」と答え、逆転しています【図1-1】。

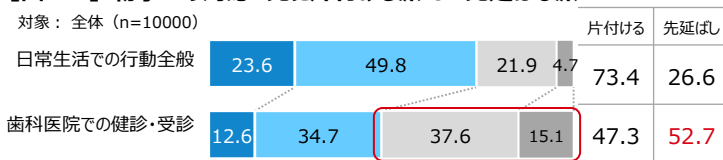
日常生活では先に片付けるほうと答えた7,343人の歯科医院での健診・受診の答えを見ると、「先に片付けるほう」が58.0%と全体よりは高くなっていますが、それでも4割が「先延ばし」（42.0%）してしまうと答えています【図1-2】。

日頃から積極的に物事に対処する人でも、歯の健診・受診は、先延ばしにしたい、どちらかという気の重いことようです。

■ 先延ばししたい歯の健診だが、「もっと早くから健診しておけば…」と75%が後悔

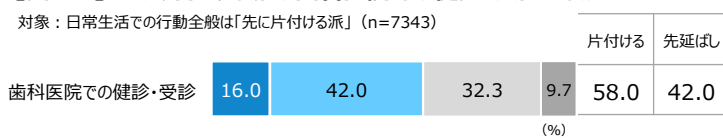
何かと先送りしたい歯科医院での健診・受診ですが、これまでの人生を振り返って、もっと早くから歯の健診や治療をしておけばよかったと思うかと聞くと、75.7%が「そう思う」と答えています【図2】。日本人の4人に3人は、歯の治療を先延ばししてしまったことを後悔しているようです。

【図1-1】物事への対応 先に片付ける派 or 先延ばし派？



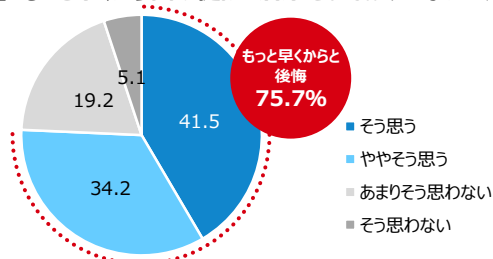
- できるだけ先に片付けるほう（気になり始めたらすぐに対応するほう）
- どちらかといえば先に片付けておきたいほう
- どちらかという先延ばしする（どちらかというギリギリまで対応しない）ほう
- できるだけ先延ばしするほう（ギリギリまで対応しない）ほう

【図1-2】先に片付ける派の歯科医院での健診・受診意識



- できるだけ先に片付けるほう（気になり始めたらすぐに対応するほう）
- どちらかといえば先に片付けておきたいほう
- どちらかという先延ばしする（どちらかというギリギリまで対応しない）ほう
- できるだけ先延ばしするほう（ギリギリまで対応しない）ほう

【図2】もっと早くから歯の健診・治療をしておけばよかったと思うか？



対象：全体（n=10000）

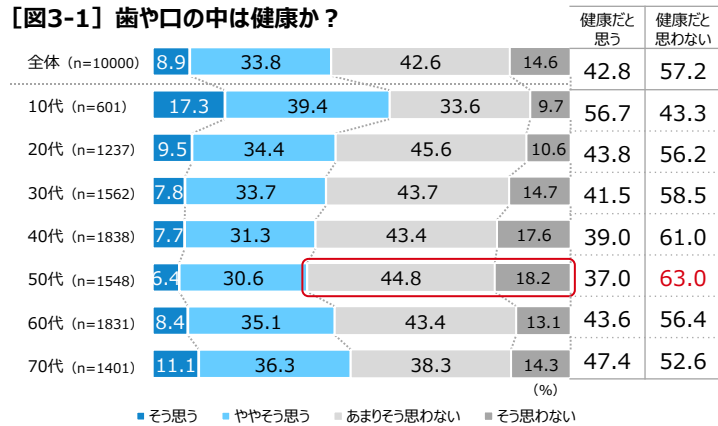
歯の健康状態

■ 歯の健康に自信が持てない日本人 半数以上が「健康だと思わない」と回答

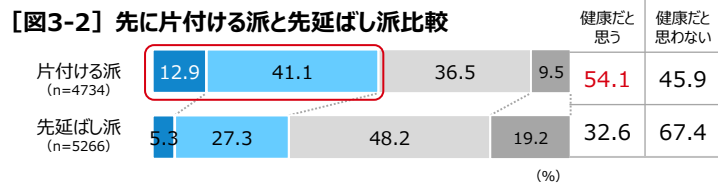
歯の健診に関して後悔しがちな日本人ですが、自身の歯や口の中の健康状態を聞くと、6割近くが「健康だと思わない」（57.2%）と答えており、歯や口の中の健康に自信を持っていない人が多くなっています。年代別に見ると、10代では56.7%が「健康だと思う」と答えていますが、他の年代は「健康だと思わない」が半数を超え、40代では61.0%、50代では63.0%が「健康だと思わない」と答えています【図3-1】。

ちなみにこの結果を前述【図1-1】の歯科医院での健診・受診の「先に片付ける派」（4,734人）と「先延ばし派」（5,266人）とで比較すると、先に片付ける派は54.1%が「健康だと思う」と答えているのに対し、先延ばし派は67.4%が「健康だと思わない」と答えています【図3-2】。

【図3-1】 歯や口の中は健康か？



【図3-2】 先に片付ける派と先延ばし派比較

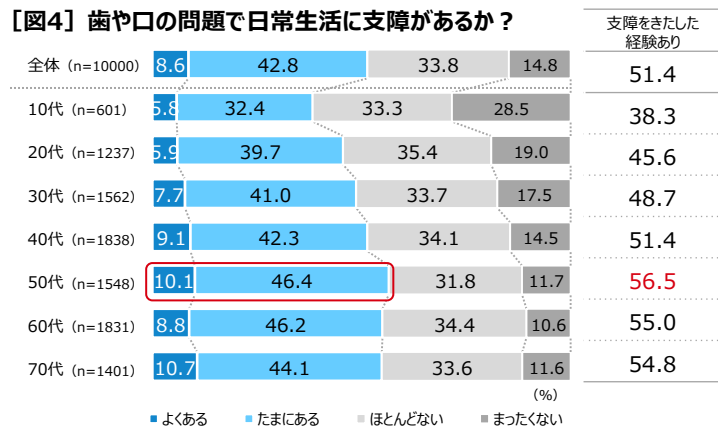


■ 日本人の半数が歯の問題で日常生活に支障をきたしている 50代は歯のトラブル世代に

この1～2年に歯や口の問題（痛くなる、はれる、つめものがとれる、ものがはさまるなど）で日常生活に支障をきたしたことがあるかと聞くと、半数が「支障をきたした経験がある」（51.4%）と答えています。年代とともに歯や口のトラブルは増え、40代以降は半数を超え、50代は56.5%と最も高くなっています【図4】。歯の健康についてはまだまだ十分とはいえないようです。

また、【図3】【図4】の結果から、50代は歯のトラブルが最大化する傾向がみられます。

【図4】 歯や口の問題で日常生活に支障があるか？



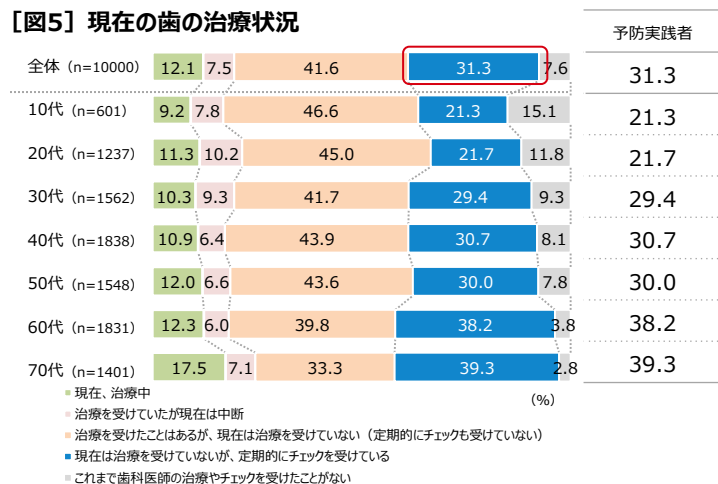
■ 定期的に歯のチェックを受ける“予防実践者”は、全体の約3割

これまでの歯の治療状況を聞くと、全体の92.4%が歯科医師の治療経験が「ある」と答えています。歯科治療は、日本人にとって身近な医療機関であることがうかがえます【図5】。

現在の治療状況をみると、12.1%が「現在、治療中」、41.6%が「治療を受けたことはあるが、現在は治療を受けていない、定期的にチェックも受けていない」と答えていますが、31.3%は「現在は治療を受けていないが、定期的にチェックを受けている」と歯の予防を実践しています。

定期的にチェックを受け歯の予防を実践しているのは、若い世代では2割程度（10代21.3%、20代21.7%）ですが、年代とともに増え、60代（38.2%）、70代（39.3%）では約4割を占めています。

【図5】 現在の歯の治療状況



定期的に歯のチェックを受ける“予防実践者”の傾向

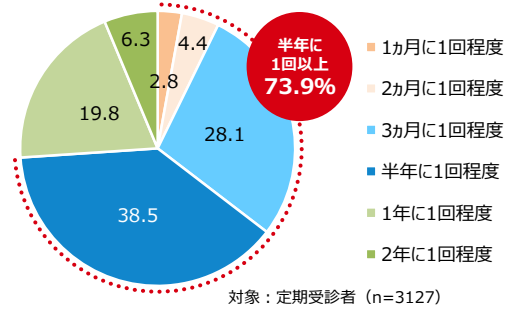
■ 「半年に1回以上」定期的に歯のチェックを受ける人が74% チェックを受ける理由は「安心できるから」

歯の定期チェックを受けていると答えた予防実践者にその頻度を聞くと、「3か月に1回程度」（28.1%）から「半年に1回程度」（38.5%）がボリュームゾーンで、「半年に1回以上」定期的に歯のチェックを受ける人が4人に3人（73.9%）と多くなっています【図6】。

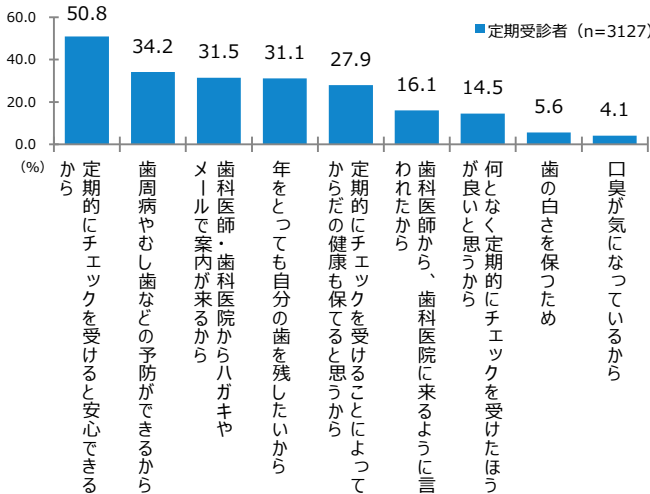
定期的に歯のチェックを受ける理由を聞くと、「定期的にチェックを受けると安心できるから」（50.8%）が一番多く、「歯周病やむし歯などの予防ができるから」（34.2%）、「年をとっても自分の歯を残したいから」（31.1%）など、予防に積極的に向き合う姿勢が感じられます【図7】。

定期受診者に自身の歯や口の中の健康について聞くと、62.4%が「健康だと思う」と答えており、前述【図3】の全体平均（42.8%）よりも20ポイントも健康感が高くなっています【図8】。

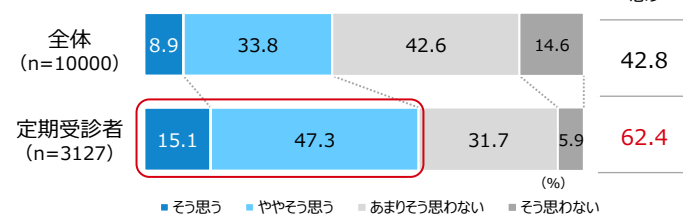
【図6】 歯の定期チェックの頻度



【図7】 歯の定期チェックを受ける理由



【図8】 歯や口の中は健康か？



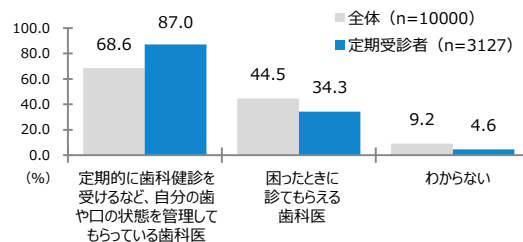
「かかりつけ歯科医」の状況

■ 63%が「かかりつけ歯科医」あり。歯を定期的にチェックする予防実践者では84.9%も

継続的に適切な治療や管理を行い、いつでも相談に応じてくれる身近なかかりつけ歯科医がいることは、生涯を通じて口腔の健康を維持し、健康寿命の延伸に役立つものです。そこで、かかりつけ歯科医の実態について調べてみました。

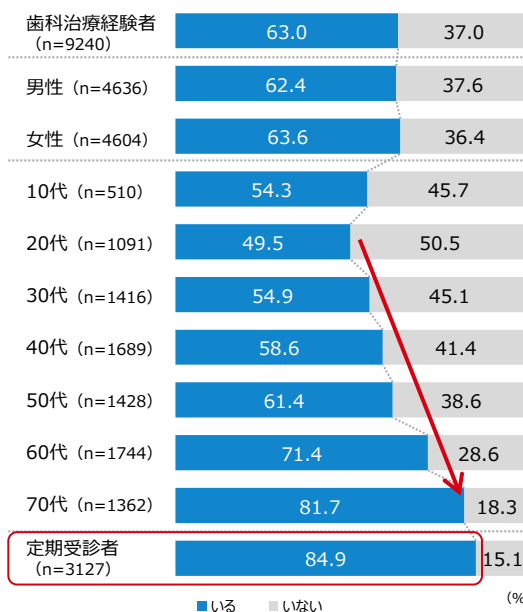
まず、「かかりつけ歯科医」とはどんな歯科医だと思うかと聞くと、68.6%が「定期的に歯科健診を受けるなど、自分の歯や口の状態を管理してもらっている歯科医」と理解しています。定期的に歯のチェックを受けている予防実践者の理解度は87.0%と一層高くなっています【図9】。

【図9】「かかりつけ歯科医」とは？



次に、これまでに歯科治療を受けたことがあると答えた9,240人に、かかりつけ歯科医がいるかと聞くと、【図10】の通り全体の63.0%が「いる」と答えています。

【図10】かかりつけ歯科医の有無

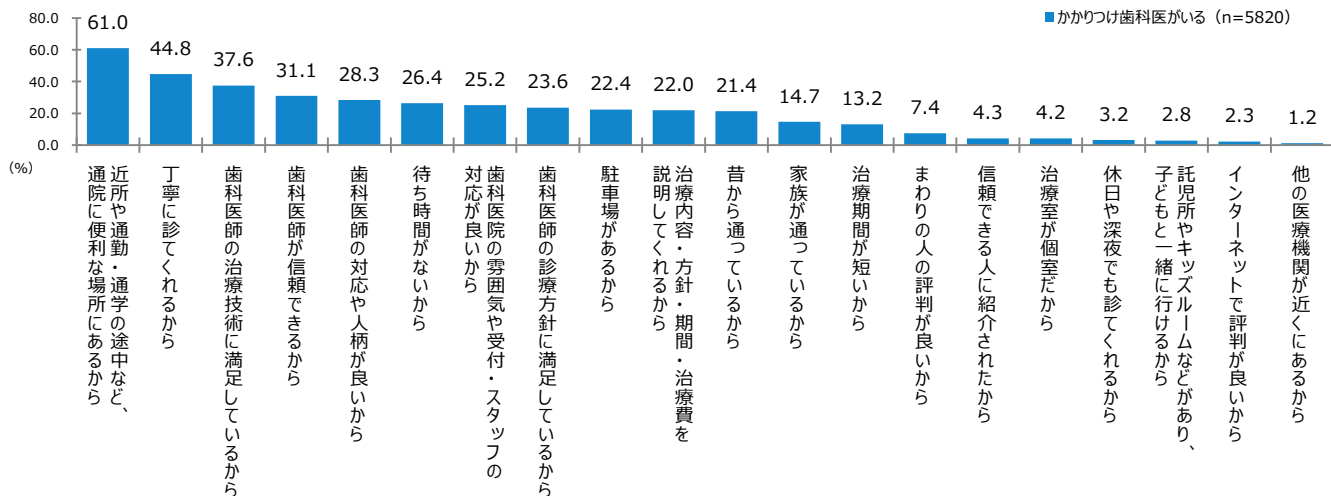


男女差はありませんが、若い世代はかかりつけ歯科医が「いない」が多く、20代では50.5%が「いない」と答えています。しかし、年代とともにかかりつけ歯科医が「いる」と答える人が多くなり、60代71.4%、70代81.7%とシニア世代ではほとんどの人にかかりつけ歯科医がいます。

また、歯の定期チェックを受けている予防実践者では、かかりつけ歯科医が「いる」が84.9%と、全体より20ポイント以上高くなっています。

かかりつけ歯科医が「いる」と答えた5,820人に、かかりつけ歯科医を選んだ理由を聞くと「近所や通勤・通学の途中など、通院に便利な場所にあるから」(61.0%)が最も多く、「丁寧に診てくれるから」(44.8%)、「歯科医師の治療技術に満足しているから」(37.6%)、「歯科医師が信頼できるから」(31.1%)などが上位にあげられました【図11】。

【図11】かかりつけ歯科医を選んだ理由



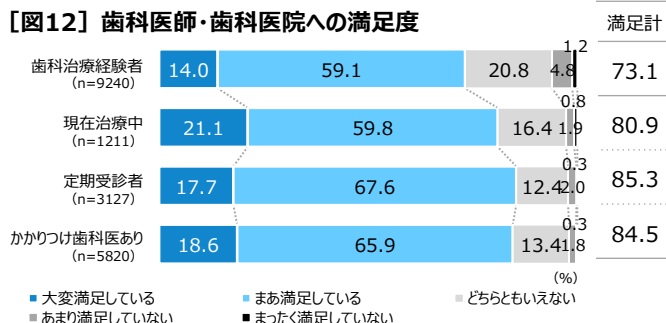
歯科医師・歯科医院との付き合い方

■ 歯科満足度は73.1%。「治療が丁寧で上手」「治療前にわかりやすく説明」が歯科満足度の二大理由に

次に、歯科医師・歯科医院への満足度について聞いてみました。【図12】 歯科医師・歯科医院への満足度

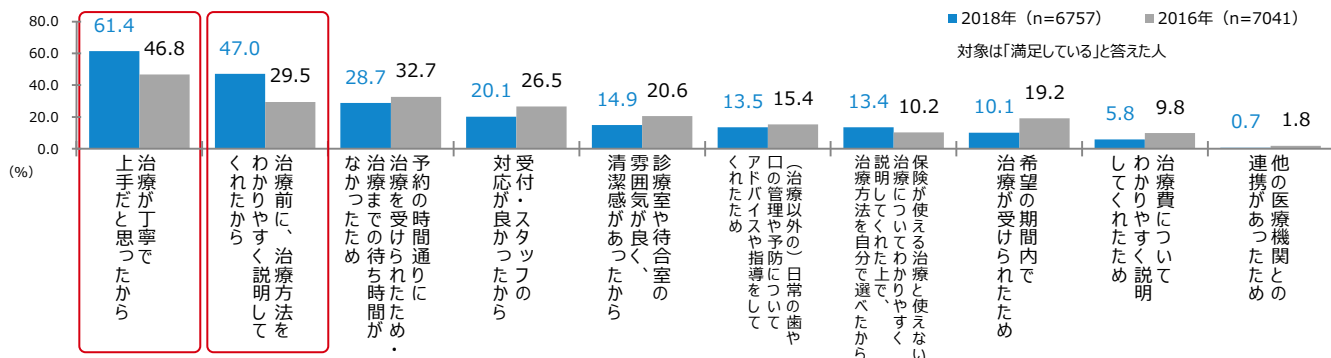
これまでに歯科治療を受けたことがあると答えた9,240人に、直近でかかった歯科医師・歯科医院の治療に対する満足度を聞くと、約7割が「満足」（73.1%）と答えています。

現在治療中の人満足度は80.9%、定期的に歯のチェックを受けている人は85.3%、かかりつけ歯科医がいる人では84.5%と、全体平均よりも高くなっています【図12】。



そこで歯科医師・歯科医院に満足していると答えた6,757人に、その理由を聞くと【図13】の通り、「治療が丁寧で上手だと思ったから」（61.4%）、「治療前に、治療方法をわかりやすく説明してくれたから」（47.0%）が大きな満足要因となっています。前回（2016年）の調査結果と比較しても、この2項目が大きく伸びており、歯科への満足度を高める二大要因と考えられます。

【図13】 歯科医師・歯科医院に満足している理由



■ 歯医者さんに求めることは、「自分の歯を残す」と「高い治療技術」

かかりつけ歯科医に求めることは、自分に合わせた継続的な治療

今後、歯科医師に求めることを聞くと、【図14】の通り、「自分の歯をできるだけ残すような処置してくれる」（77.8%）、「治療技術が高い」（76.9%）、「自分の治療に対する希望を聞いてくれる」（75.8%）などが上位にあげられました。

かかりつけ歯科医がいる人が歯科医師に求めることは、「自分の歯をできるだけ残すような処置してくれる」（82.8%）に加えて、「これまでの治療経験を把握し、対応してくれる」（81.6%）、「今後も継続的に今のかかりつけの歯科医に診てもらえること」（81.1%）、「歯や口に関する相談がしやすい」（80.0%）など、継続して診てもらっているからこそその項目が高くなっています。

【図14】 歯科医師に求めることTOP10

